



JFRL 情報宅配

* 今月のトピックス *

[ハラール認証における科学的検証の役割]

近年、日本の食品メーカー各社様において、東南アジアや中東諸国へのハラール対応品の輸出ニーズが急速に高まっております。その際、大きなハードルとなるのが「ハラール認証」です。今回は「ハラール認証団体との連携および手続き」をご紹介します。



1. ハラール認証の基本的な仕組みと流れ

ハラール認証とは、対象の商品やサービスに、イスラム教で禁じられているもの（ハラーム）が含まれていないことを認証団体が客観的に確認、認証する仕組みです。一般的に以下のステップで進行します。

- ① 申請：輸出先国で認められている（相互承認）認証団体へ申請し、必要な書類を整えます。
- ② 書類審査・実地調査：認証団体の審査員が、原材料や、製造ラインでの汚染（コンタミネーション）がないか、従業員の教育体制は整っているかなどを厳格に確認します。
- ③ 認定：審査を通過すると認証書が発行されます。

2. ハラール認証で求められる科学的検証

認証団体による審査の際、客観的なエビデンスとして「検査機関による成分分析」が要求される場合があります。その際の検査対象は以下の2点です。

- ・アルコールの有無（エタノール検査）
- ・豚由来成分の有無（豚 DNA 検査）



3. 海外当局が重視する ISO/IEC 17025 試験所認定

近年、インドネシア、トルコ、GCC 諸国（サウジアラビア、UAE 等）などへの輸出においては、ISO/IEC 17025 認定を受けた試験所による成績書が強く推奨、あるいは必須とされるケースが増えています。ISO/IEC 17025 試験所認定とは、検査機関（試験所）の検査法や技術能力が国際基準で保証されていることを意味し、発行される検査成績書は世界に通用する証明書としての役割を果たします。

4. 国内での対応が可能に

これまで、日本国内において豚 DNA 検査で ISO/IEC 17025 試験所認定を受けた検査機関がなかったため、ISO/IEC 17025 を要求された場合は海外の認定ラボへ検査依頼されていたのが実情でした。そのため、依頼に伴う作業やコスト、検体輸送期間などといったハードルがありました。弊財団では、こうした輸出時のハードルを解消するため、2025 年度のエタノール検査の認定取得に続き、2026 年 1 月に豚 DNA 検査において ISO/IEC 17025 の認定を取得いたしました。これにより、ISO/IEC 17025 対応が要求された場合でも国内で認証審査が完結するため、認証団体への提出書類もよりスムーズにご準備いただけます。

ハラール対応は、制度の理解から実務的な検査まで多岐にわたりますが、確かな「科学的データ」は、現地当局や消費者の信頼を勝ち取る強力な武器となり、グローバル展開の一助となります。

分析のご依頼や詳細につきましては、ぜひお気軽にお問い合わせください。

※ハラール認証に係る検査（ISO/IEC 17025 対応）<https://www.jfrl.or.jp/service/halal>

◎来月のトピックスは「ブラックマスについて」の予定です。

（緊急ご案内がある場合、トピックスは予告から変更の場合がございます。）

※行政情報※

* 農林水産省 * (<https://www.maff.go.jp/>)

1. [令和 8 年 4 月の農林水産物・食品の輸出実績] (2026 年 6 月 2 日 輸出・国際局 輸出企画課)

https://www.maff.go.jp/j/shokusan/export/e_info/zisseki.html

2. [「アグリビジネス創出フェア 2026」で最新の研究成果を紹介しませんか] (2026 年 6 月 9 日 農林水産技術会議事務局研究推進課産学連携室) <https://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/260609.html>
3. [「スマート畜産技術のイノベーション・普及に関する検討会」の開催について] (2026 年 6 月 16 日 畜産局畜産振興課) https://www.maff.go.jp/j/press/chikusan/c_sinko/260616.html

*** 厚生労働省 *** (<https://www.mhlw.go.jp>)

1. [HACCP 衛生管理記録アプリの公開について] (2026 年 6 月 5 日 健康・生活衛生局食品監視安全課) https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_73595.html

*** 内閣府 食品安全委員会 *** (<https://www.fsc.go.jp/>)

1. [アレルギーを含む食品の解説動画を公表しました。] (2026 年 6 月 5 日) https://www.fsc.go.jp/foodsafetyinfo_map/allergen.html

*** 消費者庁 *** (<https://www.caa.go.jp/>)

1. [令和 8 年 5 月 20 日消食基第 226 号] 食品、添加物等の規格基準の一部を改正する告示について (2026 年 5 月 20 日 消費者庁次長) https://www.caa.go.jp/policies/policy/standards_evaluation/pesticide_residues/notice/assets/standards_cms_208_260520_01.pdf
2. [保健機能食品等に関する説明会について] (2026 年 5 月 22 日開催 食品表示課) https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/foods_with_health_claims/info_session/
- (1) 栄養機能食品に関する検討会 取りまとめ
- (2) 機能性表示食品における GMP 実施状況の確認について
- (3) 販売者向け研修資料「いわゆる「健康食品」について」
3. [食品表示に関する調査事業について【令和 7 年度】] (2026 年 5 月 29 日 食品表示課) https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/information/research/2025/

*** 農林水産消費安全技術センター *** (<http://www.famic.go.jp/>)

1. [広報誌 大きな目小さな目 No. 82] https://www.famic.go.jp/public_relations_magazine/kouhoushi/
2. [飼料及び飼料添加物の成分規格等に関する省令の一部改正について] (2026 年 5 月 26 日) https://www.famic.go.jp/ffis/feed/tuti/r8_426.html

☆お知らせ☆

■ 展示会

<[Asia Healthcare & Medical Cosmetology Expo 2026](#)

/ [BIO Asia-Taiwan 2026](#) に出展します>

開催日および会場：2026 年 7 月 16 日～19 日

台湾 台北市 台北南港展示センター ホール 1, 1F ブース No:i130



■ 学会関連案内

◎2026 年 6 月 26 日, 27 日：[日本分析化学会有機微量分析研究懇談会年次大会](#)

【口頭発表】6 月 26 日 16:30～17:10 Oral Presentation, 発表番号：OG-04

「定量 NMR 法 (qNMR) による水溶液中におけるピロロキノリンキノン分子種の挙動解析と定量への応用検討」

◎2026 年 7 月 4 日, 5 日：[第 14 回日本食育学会学術大会](#)

【ポスター】・市販減塩調味料の活用と通常調味料の配合工夫による食塩摂取量の低減と嗜好性の検討
・1 日の献立における食塩分布の確認と主食の置き換えによる減塩効果の検証

◎2026 年 7 月 23 日, 24 日：[日本食品化学学会 第 32 回総会・学術大会](#)

【ポスター】・HPLC および LC-MS を用いた添加物迅速一斉抽出法の開発

◎2026 年 7 月 24 日～26 日：[日本乳酸菌学会 2026 年度大会](#)

【口頭発表】日程未定

「菌末添加食品の菌数測定～総菌数～測定方法の概要と課題」